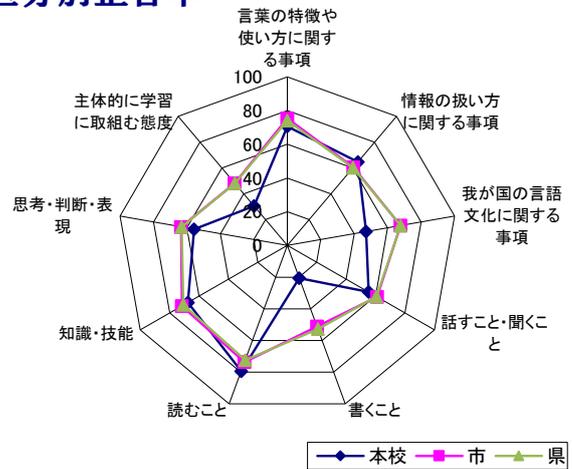


宇都宮市立西小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.6	75.4	74.1
	情報の扱いに関する事項	64.7	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	47.1	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	55.3	61.0	60.7
	書くこと	20.6	51.2	52.8
	読むこと	79.4	73.7	72.4
観点	知識・技能	67.6	71.7	70.6
	思考・判断・表現	55.7	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	30.6	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

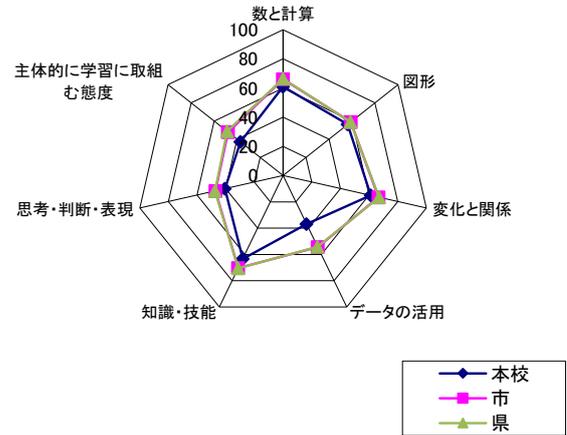
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも4.8ポイント低い。</p> <p>○漢字を読む問題の正答率は100%であった。</p> <p>●漢字を書く問題の正答率は70.6%～88.2%で、漢字を読む問題よりも低くなっている。</p>	<p>・漢字スキルやAIDリルを活用したり、適時小テストを行ったりするなど、繰り返すことによって定着を図っていく。</p> <p>・文章を書く際に既習漢字を使って文章が書けるように、授業中に国語辞典や一人一台端末を用いて、調べながら学習ができるような環境を整える。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも4.2ポイント高い。</p> <p>○説明文の内容を読み取る問題の正答率は、県の平均よりも6.4ポイント高かった。</p> <p>●漢字辞典の使い方についての問題の正答率は、県の平均よりも3.8ポイント低くなっている。</p>	<p>・授業の中で、目的意識をもち文を書いたり、文の要旨をまとめたりする活動を取り入れる。また、文章を正しく読み取るための段落の構成について学習させ、図や表、グラフなどの読み取り方について引き続き指導していく。</p> <p>・国語辞典だけでなく、漢字辞典にも使い慣れる学習活動を仕組んでいく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも大きく低い。</p> <p>●ことわざの意味を知り、正しく使えるかについての問題の正答率は、県の平均よりも20.6ポイント低くなっている。</p>	<p>・新たな課題としてことわざの使い方の習得を図る。似たような意味を持つことわざについて調べたり、まとめたり、問題を作成したりすることを通して、理解が深められるような活動を仕組んでいく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話すことについてを問う問題の正答率は、県の平均よりも11.2ポイント高かった。</p> <p>●話し手の工夫を捉える問題や意見の相違点を問う問題の正答率、県の平均よりも低くなっている。</p>	<p>・授業や学校生活の中で、話し合い活動を多く取り入れ、分かりやすい話し方の工夫や司会の役割を考えながら、実際の話合い活動をもとに、計画的に話し合いを進めていけるように指導していく。</p>
書くこと	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも大きく低い。</p> <p>●指定された長さで文章を書く問題、2段落構成で文章を書く問題は、共に大きく県の平均よりも低くなっている。</p>	<p>・毎授業の振り返りなどに、日常的に文章を書く機会を設け、テーマや条件、目的や意図に合わせたり、グラフや表をもとにしたりして伝えたい内容を整理しながら書けるように、具体的な書き方を提示しながら指導をしていく。</p>
読むこと	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも5.7ポイント高い。</p> <p>○登場人物の性格について問う問題の正答率は100%であった。</p> <p>○叙述を基に、物語文の登場人物の気持ちや、説明文の段落相互の関係を捉える問題についても正答率が高い。</p>	<p>・常に本文の叙述に則した読み取りができるように引き続き指導をしていく。また、児童が様々な作品や文章に触れる機会を増やし、読書に親しむ態度の育成や読書活動の充実を図っていく。</p>

宇都宮市立西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.0	66.1	66.4
	図形	56.3	58.9	58.8
	変化と関係	61.2	66.6	67.0
	データの活用	36.8	54.4	54.2
観点	知識・技能	63.4	70.4	70.6
	思考・判断・表現	40.6	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	37.0	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

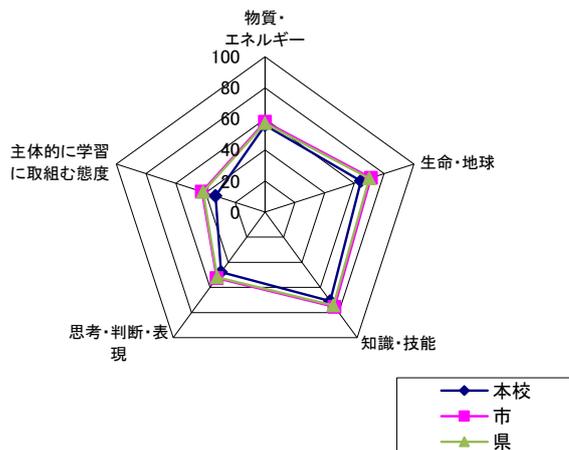
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも5.1ポイント低い。</p> <p>○与えられた分数を数直線上に表す問題では、正答率が100%であった。</p> <p>●千の位までの概数の表し方を答える問題、概数に対応する数の範囲を答える問題、余りのあるわり算の計算などで正答率が低い。</p>	<p>・計算ドリルやAIドリルを活用し、基本的な計算問題に繰り返し取り組ませていく。</p> <p>・概数の表し方の確認を行ったり練習問題を積み重ねたりして、概数についての理解が深められるようにする。</p>
図形	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも2.6ポイント低い。</p> <p>え</p> <p>○複合図形の面積を求めるための式に合うように分割した図を選ぶ問題、直方体の面に平行な辺を答える問題では、市の正答率を大きく上回っている。</p> <p>●面積の単位の関係を説明する問題では、正答率がとても低い。平行四辺形を作図する問題も、市の正答率より大きく下回っている。</p>	<p>・長さどうしの単位の換算・長さや面積の単位の関係など、基本的な事項をおさえることや、長さや面積についての感覚を豊かなものにできるよう実測したり体感したりする活動を取り入れるなどの機会を設ける。</p> <p>・作図の問題では、分度器や三角定規、コンパスを使う問題に多く取り組ませることによって、正確な作図ができるように指導していく。</p>
変化と関係	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも5.4ポイント低い。</p> <p>○基準量を求めるための除法を立式する問題で、市の正答率より10.1ポイント上回っている。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求める問題や、2つの数量の関係を式に表す問題で、市の正答率を下回っている。</p>	<p>・伴って変わる2つの数量の關係に着目し、一方を決めるとそれに伴って何が決まるのかを考えたり、一方の変化に対応してもう一方がどのように変化するかを調べたりするなど、変化や対応の特徴を見いだす問題に取り組ませていく。</p>
データの活用	<p>本校の平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>●折れ線グラフから変わり方や必要なことを読み取る問題の正答率が低い。二次元表の読み方についても正答率が低い。</p>	<p>・グラフを読む際には、印を付けたり色を付けたりして読み取れる内容を分かりやすくしながら指導していく。</p> <p>・二次元表のそれぞれの欄は、何を表しているのか丁寧に確認し、必要な情報がどの欄に表されているのか、問題を通して読み方について指導していく。</p>

宇都宮市立西小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.9	58.1	57.2
	生命・地球	64.4	71.1	70.0
観点	知識・技能	70.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	47.9	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	33.3	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の平均よりも2.2ポイント下回っている。</p> <p>○電池の向きを入れ替えた時の車の進む向きについては、正答率が市の平均よりも30ポイント以上高い。温度と体積の変化を利用したものについての問いも、市の平均より正答率が上回っている。</p> <p>●温度による金属の体積の変化や、グラフをもとに水の量の違いと沸騰する温度について記述する問いについては、市の平均より大きく下回っている。空気と水の押し縮めたときの違いや、水を温めるためのヒーターの位置についての問い、水を沸騰させるときに沸騰石を入れる理由についての問いについても、正答率が下回っている。</p>	<p>・電気の働きについての学習では、一人一人が実験に取り組み、様々な活動に主体的に取り組んでいるので成果が表れている。成果が十分に表れなかった学習についても、児童が主体的に活動に取り組むことができるよう、自ら課題を見出し実験・観察を行う活動を課題ごとに取り入れるようにする。</p> <p>・科学的な見方を具体的に明示し、観察結果や考察を表現することができるよう支援する。また、学習形態を工夫し、共に取り組んだり、互いの意見を伝え合い、話し合ったりする活動を多く取り入れ、思考力を高めるよう支援する。</p> <p>・基礎的な内容の重要事項については、その単元の学習活動の中で繰り返し触れたり日常生活係ることに当てはめたりすることで定着させ、振り返りをすることで確実な力としていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均よりも下回っている。</p> <p>○気温の変化と植物の茎の伸びについて関係づけることができるという問いについては、市よりも11ポイント正答率が高い。気温が下がるとヘチマが種子を残すことについての問いは、市よりも7ポイント高い。水を入れた数日後のピーカーの様子については、9ポイント高い。</p> <p>●動物の体のつくりと運動についてや、天気の様子と気温、雨水の行方と地面の様子については、知識・技能、思考・判断・表現の観点においての問いに対して、市の平均よりも大きく下回っていた。</p>	<p>・実験・観察がしやすく、自分の目で確かめることができた内容においては、理解が高い傾向にある。どの学習内容においても、問題を自分のものとしてとらえることができるように、自分たちで課題を作り、予想を立てて実験や観察を行い記録し、考察してまとめるという過程をすべての活動で取り入れ、主体的に取り組めるようにしていく。</p> <p>・実験・観察がしにくい内容についても、必ず実験・観察を行うとともに情報機器や資料を活用して学力の定着を図るようにする。</p> <p>・思考力・判断力・表現力を高めるために、学習の中で科学的な視点を提示し、それをもとに実験・観察結果をまとめたり、考察したりするように支援する。</p> <p>・様々な角度から見たり、考えを深めたりすることができるように児童同士の話し合いや交流の機会を多く設けるようにする。また、科学的な見方を日常生活に広げられるよう指導し、科学的な考え方を身に付けさせる。</p>

宇都宮市立西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○勉強していて面白いと思うことがあるという質問には、肯定的な割合が県の平均を24ポイント上回っている。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」という質問は、「はい」と「どちらかといえばはい」の回答で100%だった。相手意識が育ち仲間意識が高い傾向にある。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の質問では「はい」と「どちらかといえばはい」の回答で100%と宇都宮市の平均を上回っている。授業者が自分の考えを発表したり友達間で話し合いをする活動を効果的に取り入れた授業をコーディネートしている成果が見られる。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問で「はい」「どちらかといえばはい」と回答した児童の割合は、88%だった。授業で教師が意図的に話し合い活動の場を設定し、対面形式以外での意見交換が可能な授業形態を工夫している成果が表れている。今後も引き続き、タブレット端末なども用いた多様な形態での話し合い活動を継続していく。

○「授業で分からないことは先生に聞くことができる」の質問や「友達同士で話し合っクラスのみまりごとなどを決めていく」の質問は、どちらも県平均を上回っている。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くのはむずかしい」の質問では、肯定的な割合が県の平均を下回っている。一方で、「授業で扱うノートには、学習の目標やまとめを書いている」の質問は、県の平均を大きく上回っている。自分の考えを書く際には、あらかじめ形式を示し、自分の考えの書き方について継続して支援をしていく。

●宇都宮モデルに従い、めあての確認、まとめ、振り返りを定着させる取り組みをしている。「めあてが示されているか」の質問項目は県の平均を下回っていることから、これまで以上に児童に分かりやすく提示していくとともに、学校全体で授業のみまりにおいて徹底するよう再確認していく。

宇都宮市立西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
個に応じた指導	パワーアップタイムとして、朝の学習の時間に児童が特に取り組みたい教科の内容を担当以外の教員が支援することで少人数制での指導を継続していく。	「難しい問題にであうとよりやる気がある」の質問に対し、本校の回答は宇都宮市の平均を下回っている。一方で「勉強していて、面白い、楽しいと思うことがある」という児童の回答は85%であり、児童が苦手を克服し達成感を味わえるよう、継続して個に応じた指導体制を整えていく。
話し合い活動の充実	自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを自分と比べながら聴く時間を確保している。従来のペアやグループ学習から、タブレット端末を用いての意見交流や教師が児童同士のコーディネートするなどして、各教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数から全体へと広めていけるようにしている。	「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができる」という質問では、肯定的に回答している児童が7割であった。今後も、引き続き、他者の意見と比べながらよりよく考える学級活動に力を入れ、そこで学んだことを各教科の話し合い活動に生かすよう継続して指導していく。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業では、めあての確認、終末では学んだことの振り返りを行うことで、分かったことを明確にしている。自分の考えを分かりやすく書いたり、友達の考えから考えを深めたりできるような指導に努めている。	「めあてが示されているか」「振り返りをしているか」「まとめをしているか」いずれの質問項目も平均を下回っていることから、学習課題を明確にし児童に理解させたいよう把握させ、授業を展開するよう努める。・授業のまとめについては、自分の言葉でまとめることで、学習の理解が深められるよう工夫するとともに、振り返りでは、個人内評価を取り入れるなど児童の意欲の向上に努める。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを考察し文章で表現する力の育成 ・基礎基本の習得のための学習習慣の確立 ・課題に対し、粘り強く取り組む姿勢の育成	・表現の仕方の練習と習得 ・個に応じた指導 ・宇都宮モデルの徹底 ・特別活動における指導	・各教科における見方・考え方を具体的に明示し、自分の考えを具体的に記述することができるよう支援する。また、学習形態を工夫し、共に取り組んだり、互いの意見を伝え合い、話し合ったりする活動を多く取り入れ、思考力を高めるよう工夫をする。 ・習熟度別学習や少人数指導、パワーアップ学習等の個に応じた指導の継続。 ・特別活動の話し合い活動に重点を置き、児童の自己肯定感を高めることで、自分の意見に自信をもち苦手や困難な課題に対しても根気強く取り組める児童の育成に努める。